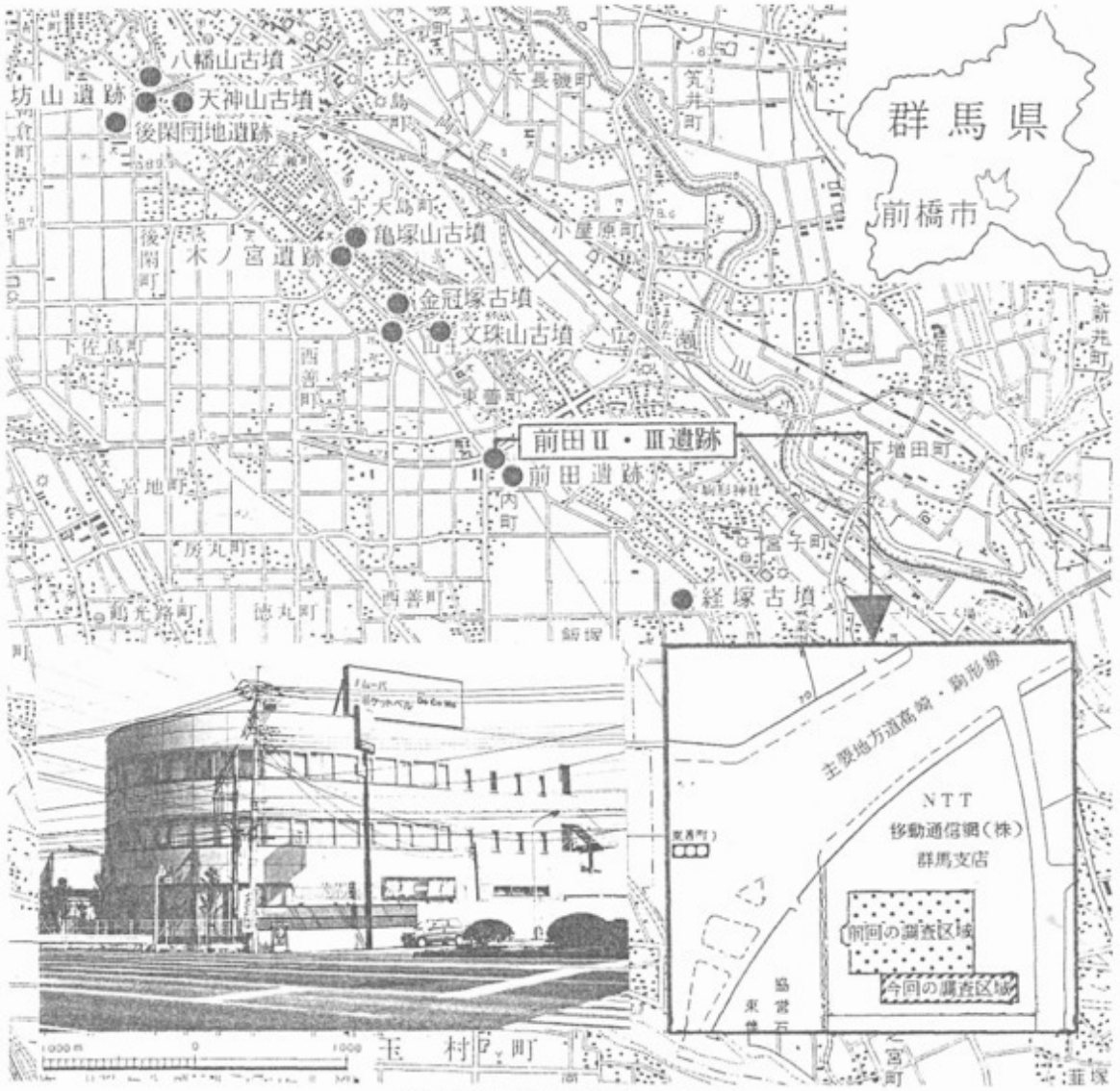
前田Ⅲ遺跡発掘調査報告書

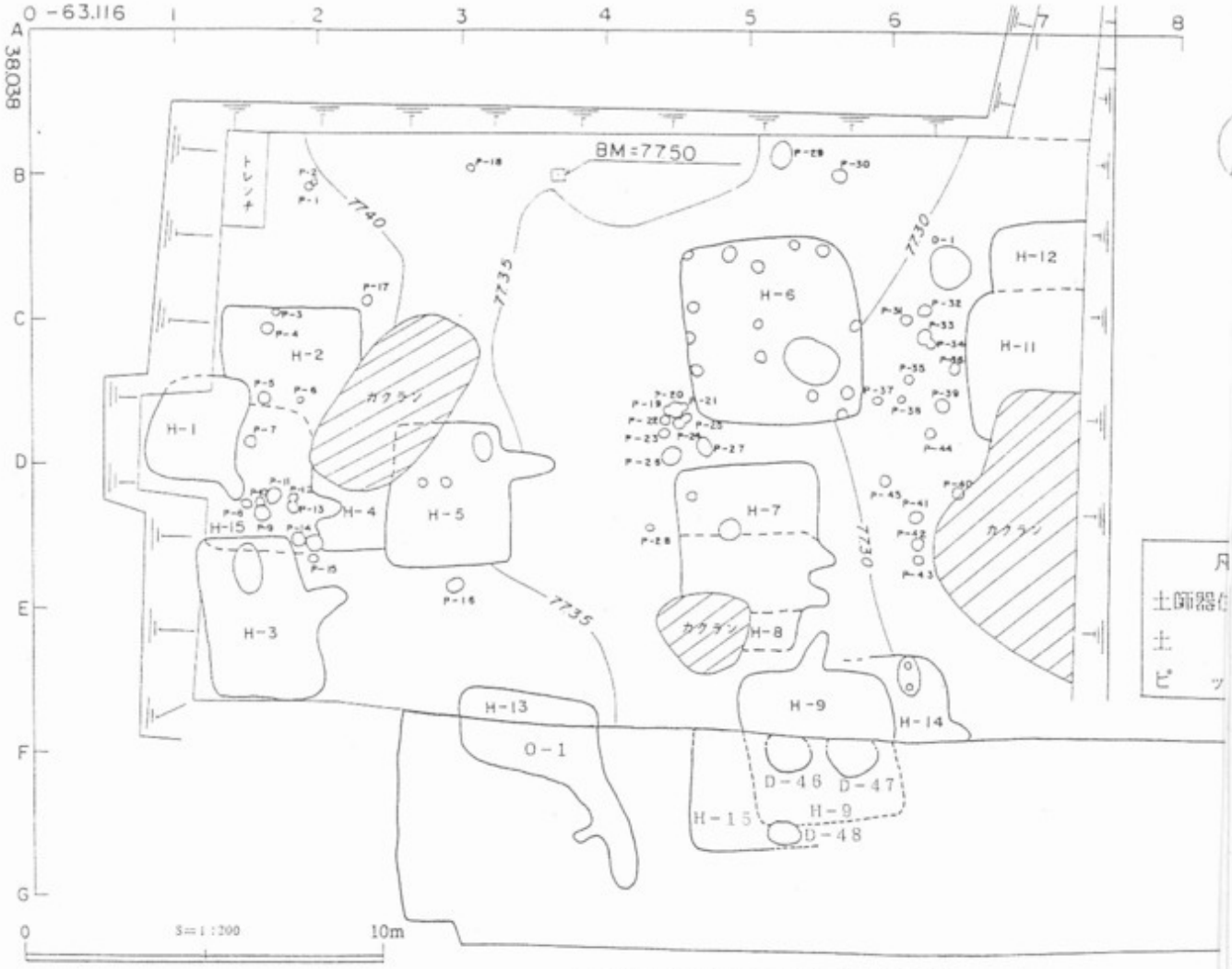
はじめに

本書はＮＴＴ移動通信網（株）群馬支店の社屋増築工事に伴う前田Ⅲ遺跡の埋蔵文化財発掘調査概要報告書であり、平成３年に発行した埋蔵文化財発掘調査報告書「前田Ⅱ遺跡」に追加するものである。

本発掘調査は前橋市教育委員会が実施したが、終始、ＮＴＴ移動通信網（株）群馬支店様並びに増築工事施工者である（株）佐田建設様の協力をいただいた。ここに深く感謝の意を表する次第である。



発掘調査位置と周辺の遺跡



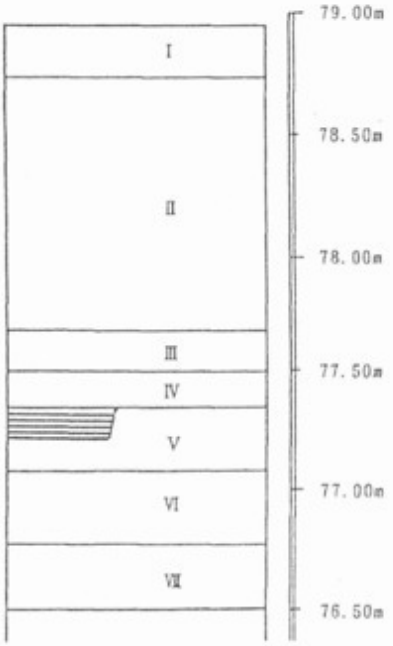
発掘調査全体図（１／２００）

発掘調査

平成7年2月23日と24日の両日で表土掘削を完了し、プラン確認の結果Ｈ－９の南側でその続きとＨ－１５を検出した。前回の調査で住居址と判断されたＨ－１３は、その続きから溝状の落ち込みと断定された。その他３基検出された土坑のうち１基はＨ１５の貯蔵穴と考えられる。

住居址の残存状況は２軒ともきわめて悪く、僅かに床面が確認できる程度であった。Ｈ－９の南側はＤ－４６・４７の土坑により撹乱を受けていたが、床と思われる土の広がりとＨ－９の平面形との一致を見たのでその一部と断定した。全域で土器片が出土したものの、接合できるものはなかった。Ｈ－１５はＨ－９や後の耕作等でほとんど削平されているが、南西角を中心に最大で１．５㎝の壁高が見られる。本住居址の貯蔵穴と思われるＤ－４８からは口径２０㎝の甕の口縁部と２個の坏が出土した。時期は２軒とも９世紀のものと思われる。

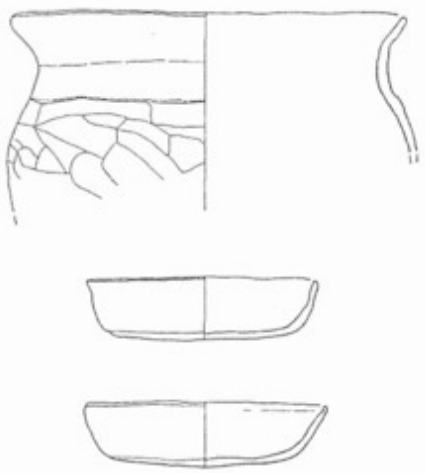
標準堆積土層



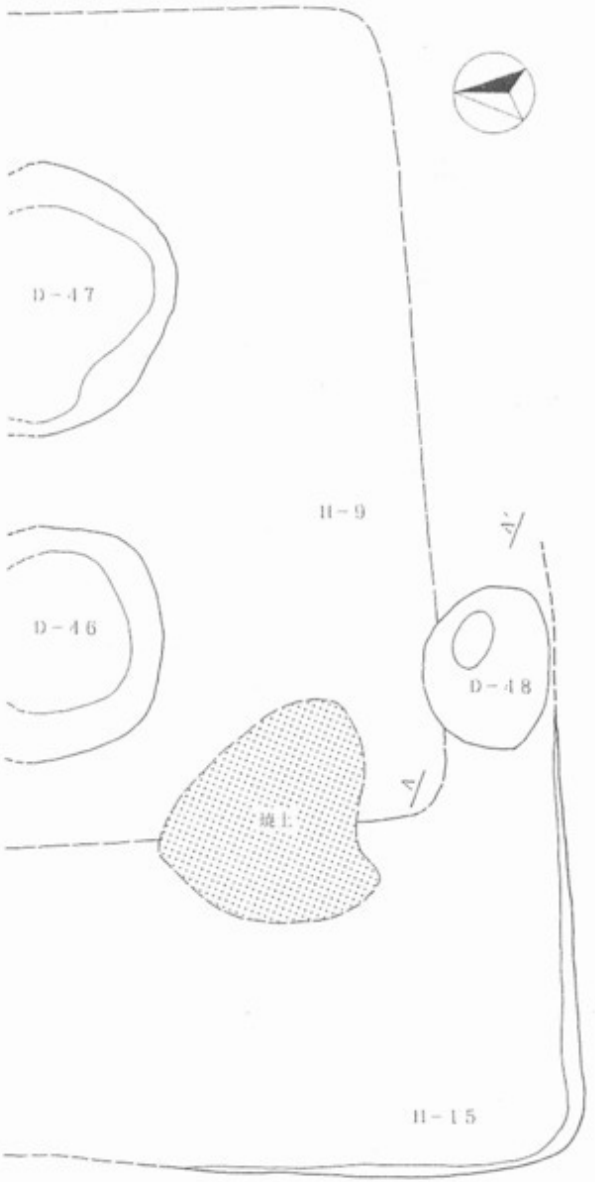
I　砂　　石
II　盛　　土（石、礫混入）
III　灰褐色土層（旧水田面　耕作土）粘性・締まりあり
　細砂とF・P（5～8mm）を所々含む
IV　灰黄褐色土層　粘性・締まりあり
　細砂を含む（黄色味を帯びる）
V　黄褐色土層　粘性・締まりややあり
　ローム粒と細砂を含む（砂質ローム）
VI　灰褐色土層　粘性・締まりややあり
　細砂を多く含み小礫を含む
VII　灰褐色土層　小礫を多く含み細砂を含む

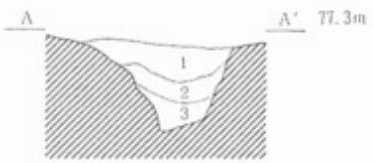
例

居址	H
坑	D
ト	P



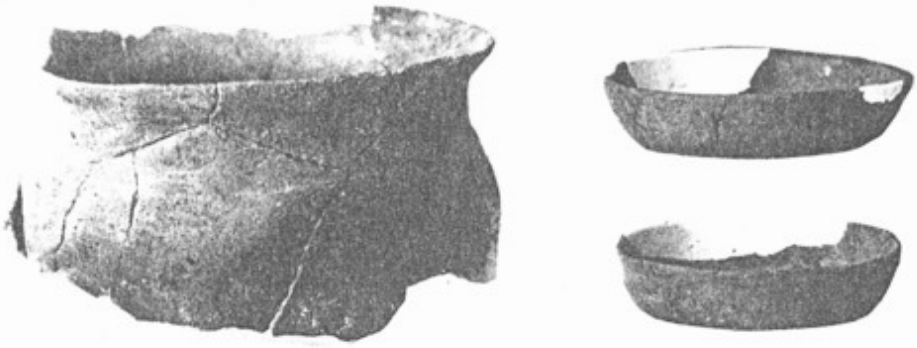
D－４８出土土器（１／４）





1　黒褐色微砂層
　炭化物・黄白色軽石を含む
2　黒褐色微砂層
　炭化物を含む
3　黄褐色細砂層
　川砂層

遺構平面図（１／４０）



D－48出土土器

抄　　録

フ リ ガ ナ	ﾏｴﾀﾞ ﾀﾝ ｲｾｷ
書　　名	前田Ⅲ遺跡
副 書 名	
巻　　次	
シ リ ー ズ 名	
シリーズ番号	
編 著 者 名	関部守央　伊藤　良
編 集 機 関	前橋市教育委員会
編集機関所在地	〒371　群馬県前橋市上泉町664－4
発 行 年 月 日	西暦1995年10月1日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所 在 地	コード 市町村	 遺跡番号	位置 北 緯	 東 経	調査期間	調査面積	調査原因
ﾏｴﾀﾞﾀﾝｲｾｷ 前田Ⅲ遺跡	ﾏｴﾊﾞｼｼﾋｶﾞｼｾﾞﾝﾏﾁ 前橋市東善町	10201	6G7	26°20′26″	139°7′48″	19950223 19950228	174㎡	店舗建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主 な 遺 物	特 記 事 項
前田Ⅲ遺跡	集落	平安時代	住居址　2軒	土師器（甕・坏）	な　し

編集・発行　　前橋市教育委員会
前橋市上泉町664－4